

Ⅲ 統計的分析手法を用いた分析について

Ⅲ 統計的分析手法を用いた分析について

市民生活実感調査の回答結果に対し、統計的分析手法を用いて、以下の三つの分析を行った。

1 生活実感における過去3年平均との比較について<資料7>

生活実感に関する130の設問について、今年度の生活実感の値と過去3年の平均値を比べて、上昇であれ、下降であれ、変化の幅が誤差の範囲を超えて顕著な変化を示したものがあるかどうかの分析を行った。該当する場合には注意を要する。その原因を究明し、今後の施策・事業につなげていくことが望まれる。

今年の回答状況が過去3年平均の回答状況と比べて、偶然ではなく、なんらかの要因により必然的に起こった変化と考えられる設問を把握するため、統計的分析手法である「U検定」を用いた。

本分析においては有意水準1%に該当するものを「変化の幅が誤差の範囲を超えて著しく変化したもの」として取り上げている。

分析の結果、23の設問において顕著な変化が見られた。

これらのうち、市全体として顕著な変化を示した11の設問の中で、政策分野「くらしの水」中の設問「大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。」が唯一下降しているのが特徴的だった。この設問ではすべての世代別・性別においても生活実感が下降しているが、平成25年9月の台風18号により右京区や伏見区を中心に広範な地域で床上・床下浸水などの被害が発生したことが原因ではないかと考えられる。実際に、居住区別の分析結果においても、大きな浸水被害があった右京区と伏見区では肯定的割合が低いという結果が出ている（市全体の平均53.1%に対し、右京区は37.6%、伏見区は41.4%）。

また、世代別・性別においては、中年層男性で該当した3問すべてと高年層女性の4問中3問が下降したという状況が目をつけた。

生活実感における過去3年平均との比較において
 顕著な変化を示した設問のグラフ

※計23問該当

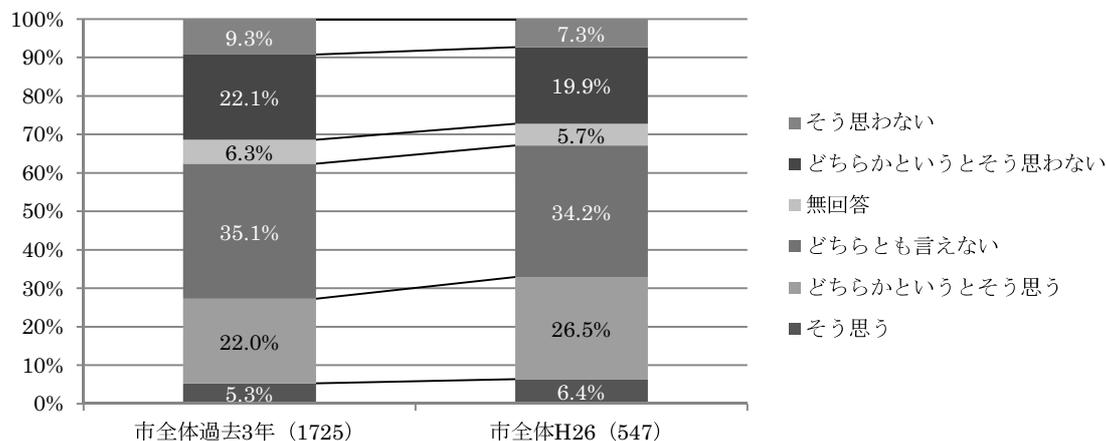
※太字は下降を示した設問

分野名	設問文 () 内は該当する世代別・性別	過去3年との比較
環境 (2問該当)	太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。(市全体)	上昇
	ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。(高年層男性)	上昇
青少年の成長 と参加 (2問該当)	青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。(市全体)	上昇
	青少年の成長を支援する社会環境と青少年を受け入れる居場所がある。(市全体)	上昇
市民生活と コミュニティ (2問該当)	地域の一員として安心してくらするまちになっている。(市全体)	上昇
	地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。(高年層女性)	下降
文化 (1問該当)	京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。(中年層女性)	上昇
スポーツ (1問該当)	プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。(高年層女性)	下降
産業・商業 (2問該当)	京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。(中年層女性)	上昇
	働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。(市全体)	上昇
観光 (1問該当)	子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。(若年層男性)	上昇
農林業 (2問該当)	京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。(市全体)	上昇
	市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。(市全体・中年層女性)	ともに 上昇
大学 (2問該当)	京都では、世界から留学生や研究者が集まり、国際社会で活躍する人材が育っている。(若年層女性)	上昇
	学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。(市全体)	上昇

国際化 (2問該当)	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。(市全体・若年層男性)	ともに 上昇
	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。(若年層女性)	上昇
保健衛生・医療 (1問該当)	感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。(市全体・高年層男性)	ともに 上昇
学校教育 (1問該当)	子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。(中年層男性)	下降
生涯学習 (1問該当)	生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。(高年層女性)	上昇
住宅 (1問該当)	長く大切に使える住宅が増えている。(若年層女性)	上昇
くらしの水 (2問該当)	大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。(市全体・若年層男性・若年層女性・中年層男性・中年層女性・高年層男性・高年層女性)	すべて 下降
	水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。(中年層男性)	下降

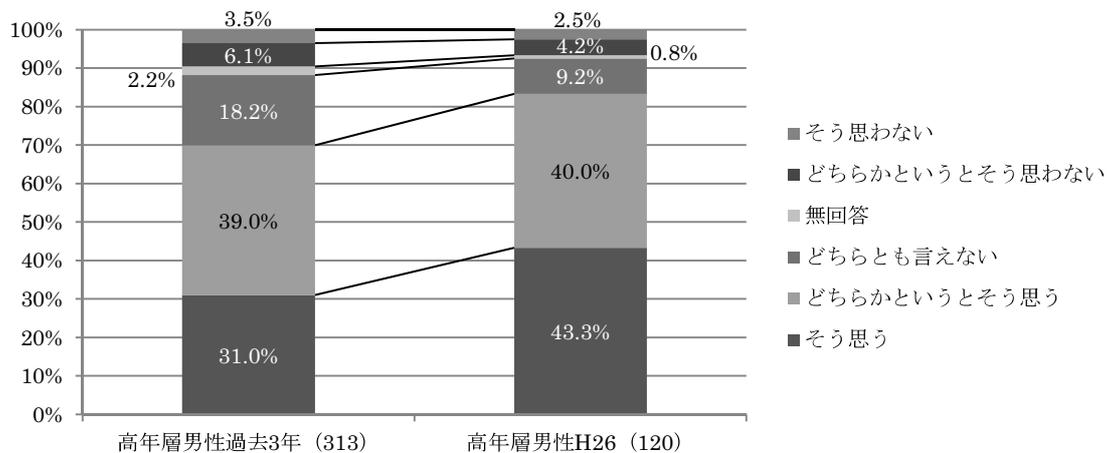
1 環境（2問該当）

(1) 太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。(市全体) **上昇**



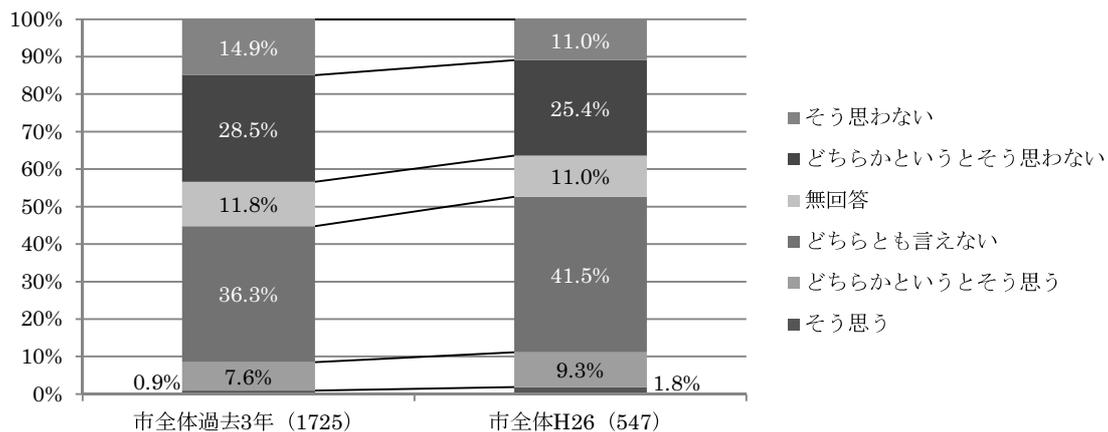
(2) ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。

(高年層男性) **上昇**

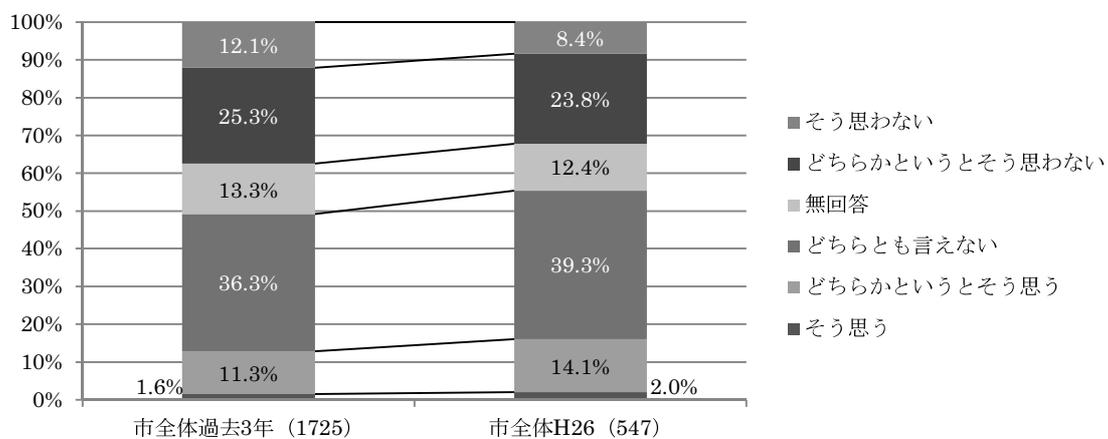


3 青少年の成長と参加 (2問該当)

(1) 青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。(市全体) **上昇**

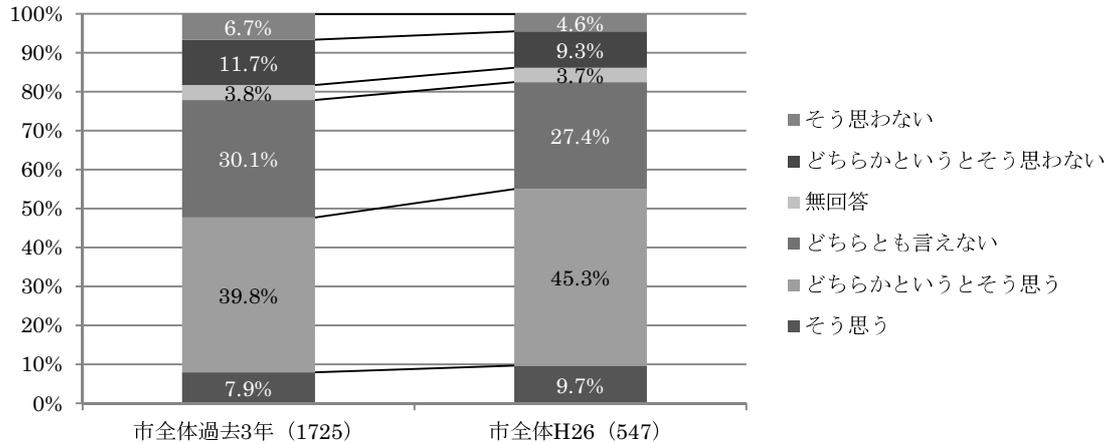


(2) 青少年の成長を支援する社会環境と青少年を受け入れる居場所がある。(市全体) **上昇**

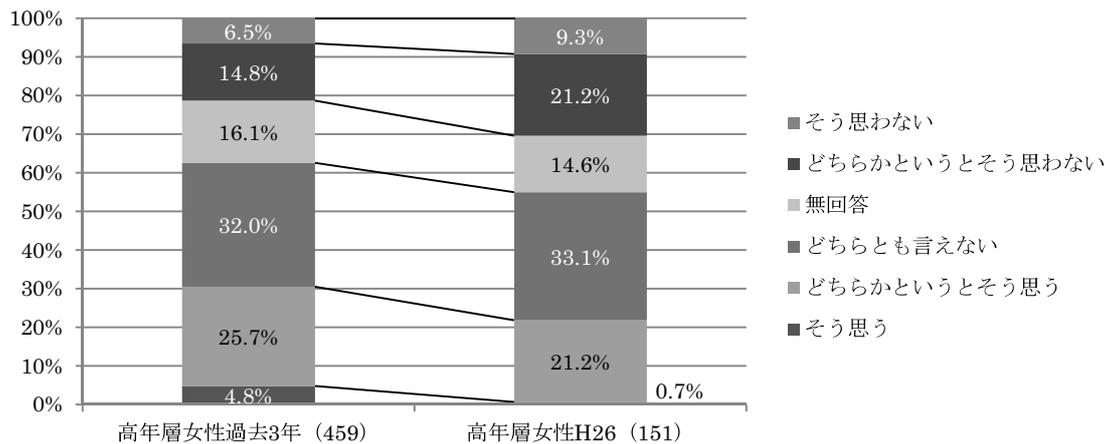


4 市民生活とコミュニティ（2問該当）

(1) 地域の一員として安心してらせるまちになっている。(市全体) **上昇**

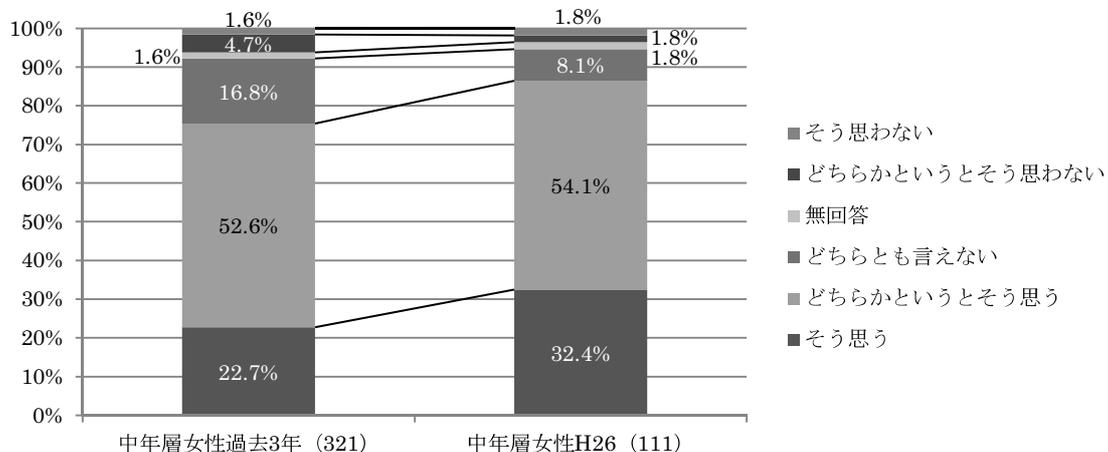


(2) 地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。(高年層女性) **下降**



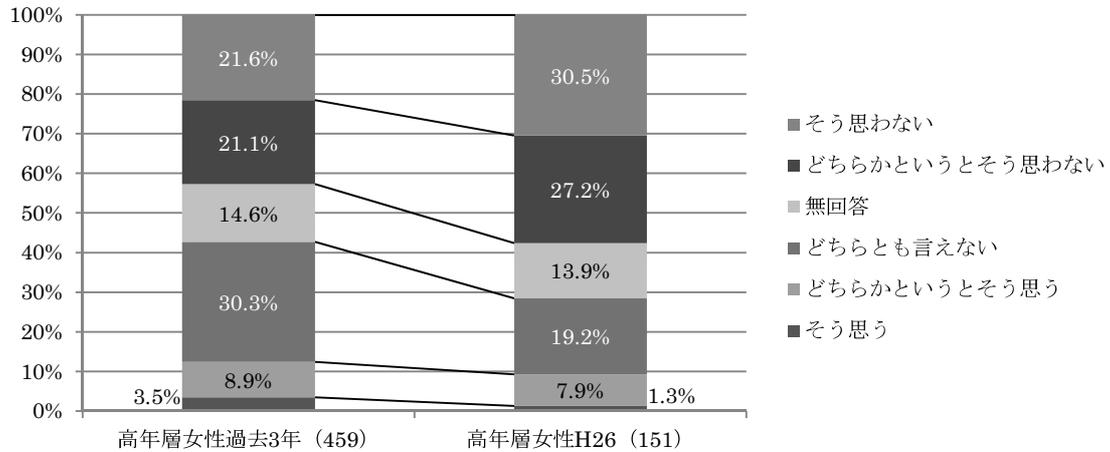
6 文化（1問該当）

京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。(中年層女性) **上昇**



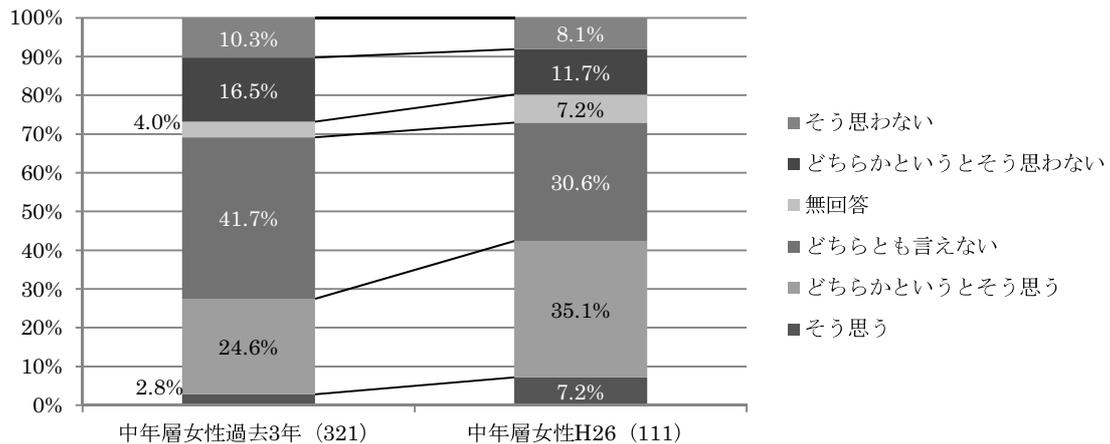
7 スポーツ（1問該当）

プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。（高年層女性） **下降**

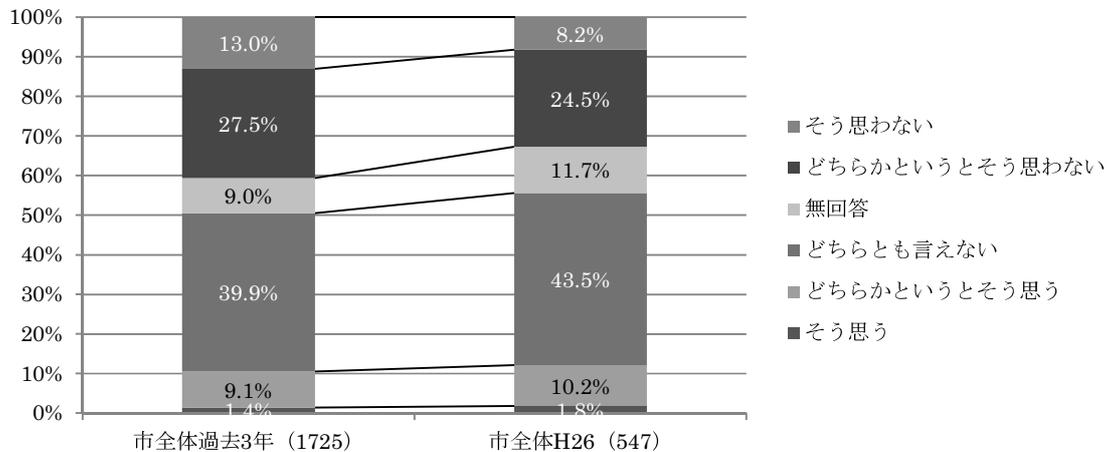


8 産業・商業（2問該当）

(1) 京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。（中年層女性） **上昇**



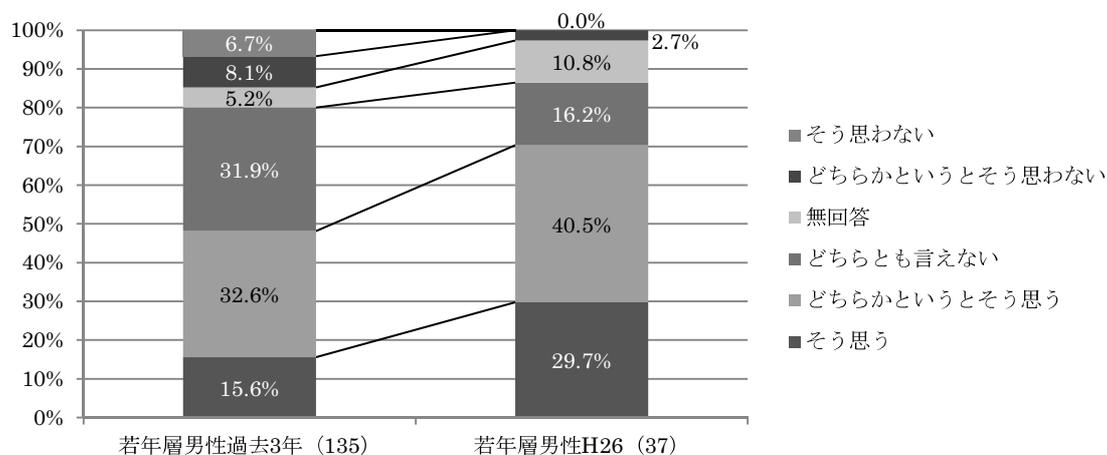
(2) 働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。（市全体） **上昇**



9 観光（1問該当）

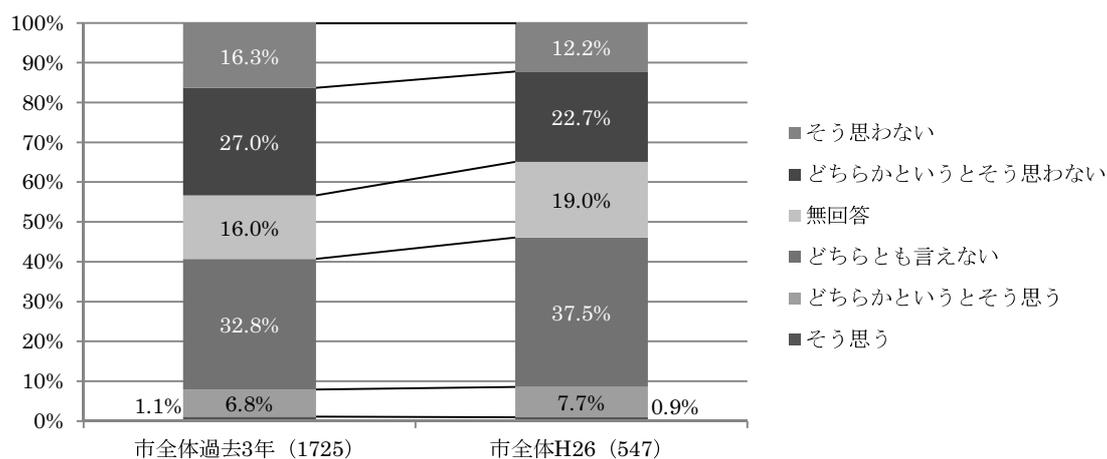
子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。

（若年層男性）**上昇**



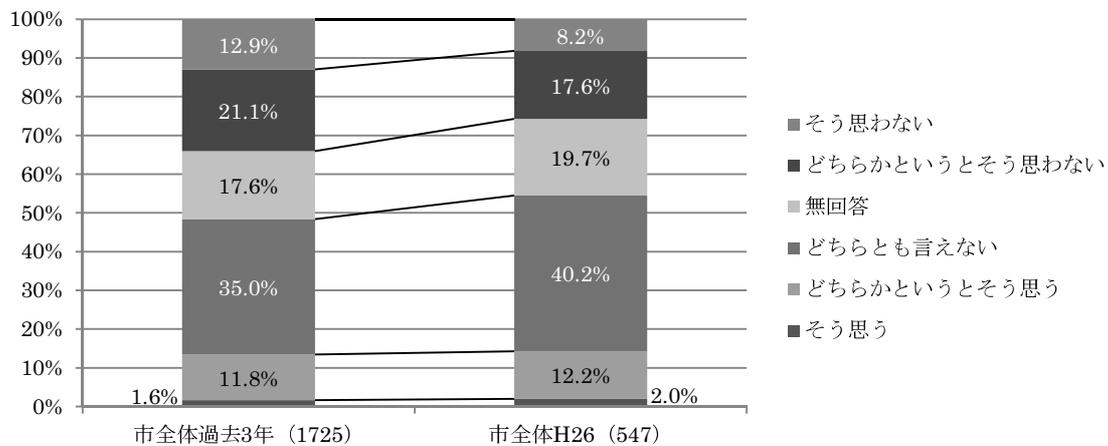
10 農林業（2問該当）

（1）京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。（市全体）**上昇**

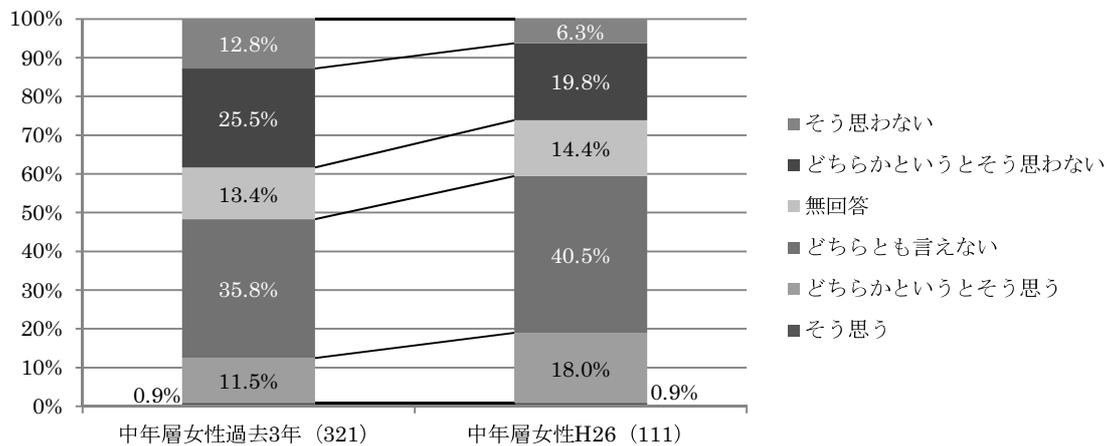


(2) 市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。(市全体・中年層女性) **上昇**

・市全体

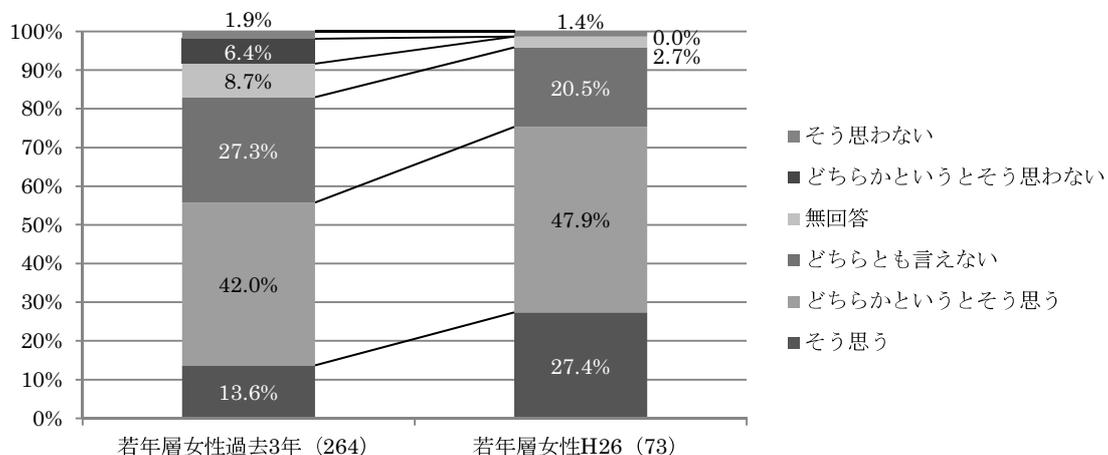


・中年層女性

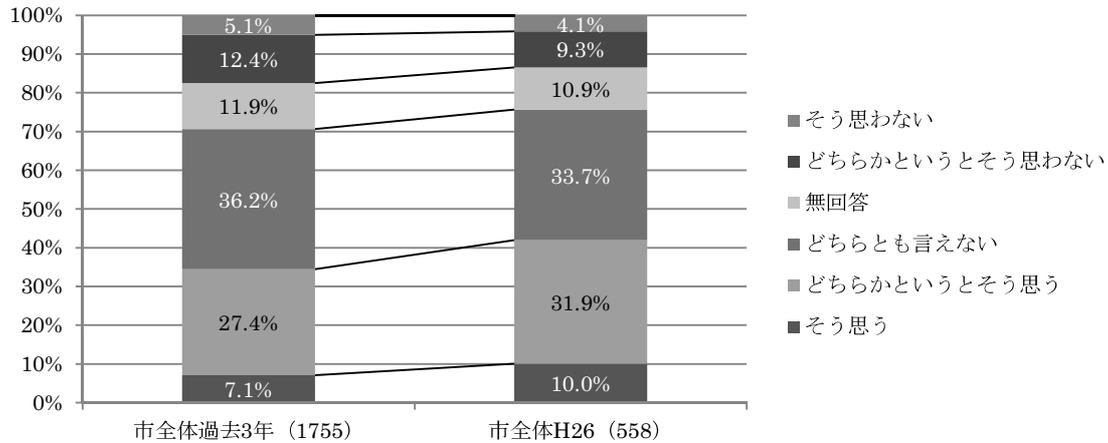


1 1 大学 (2問該当)

(1) 京都では、世界から留学生や研究者が集まり、国際社会で活躍する人材が育っている。(若年層女性) **上昇**



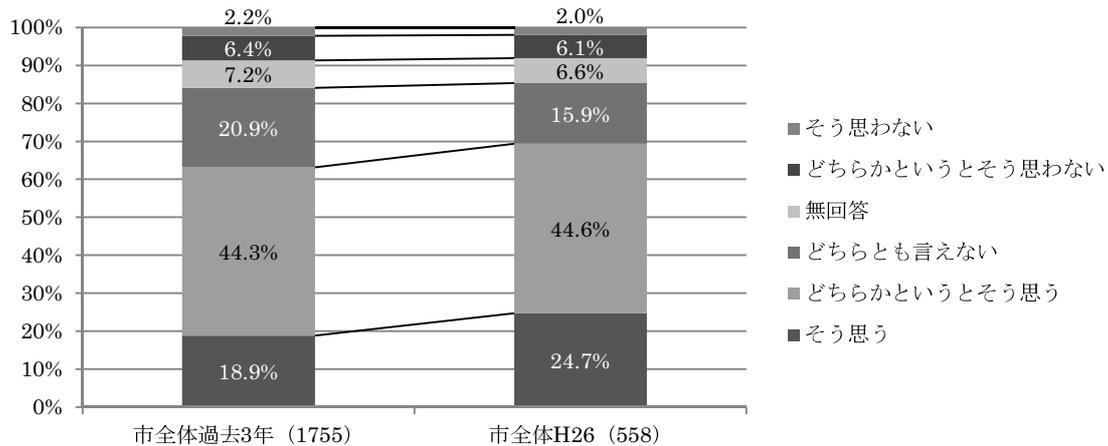
(2) 学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。(市全体) **上昇**



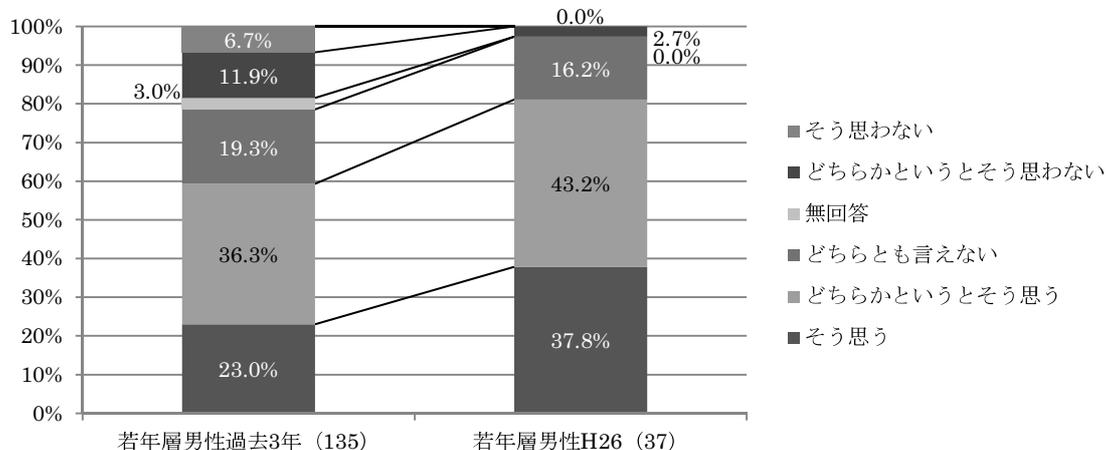
1 2 国際化 (2問該当)

(1) 京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。(市全体・若年層男性) **上昇**

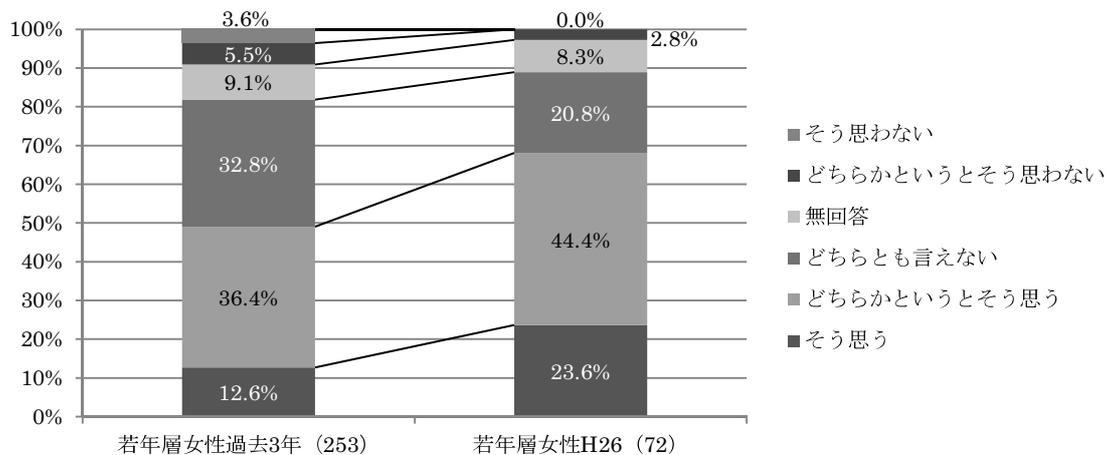
・市全体



・若年層男性



(2) 京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。(若年層女性) **上昇**

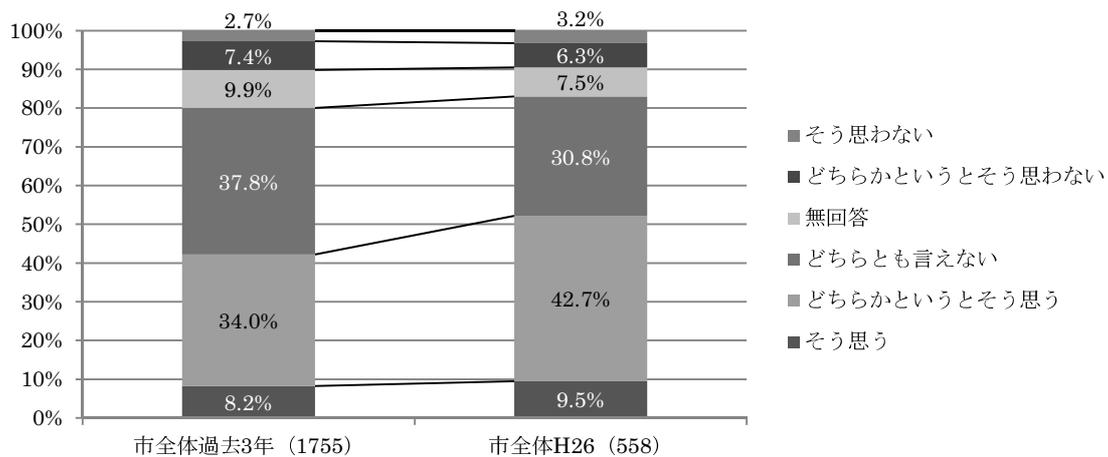


1.7 保健衛生・医療（1問該当）

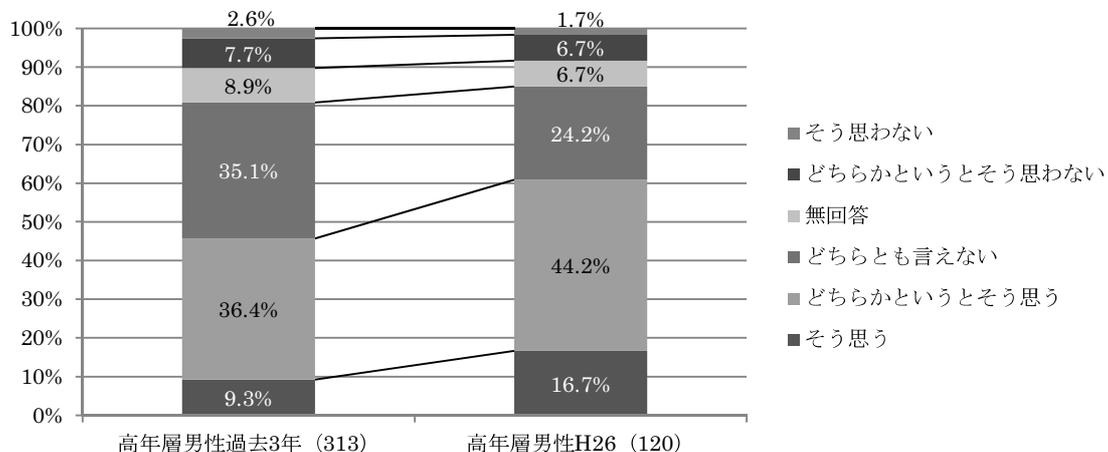
感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。

(市全体・高年層男性) **上昇**

・市全体



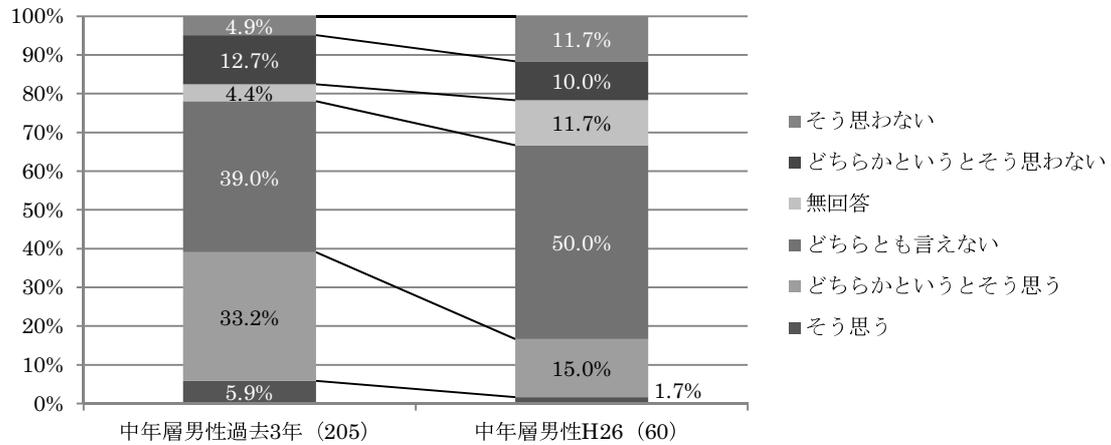
・高年層男性



18 学校教育（1問該当）

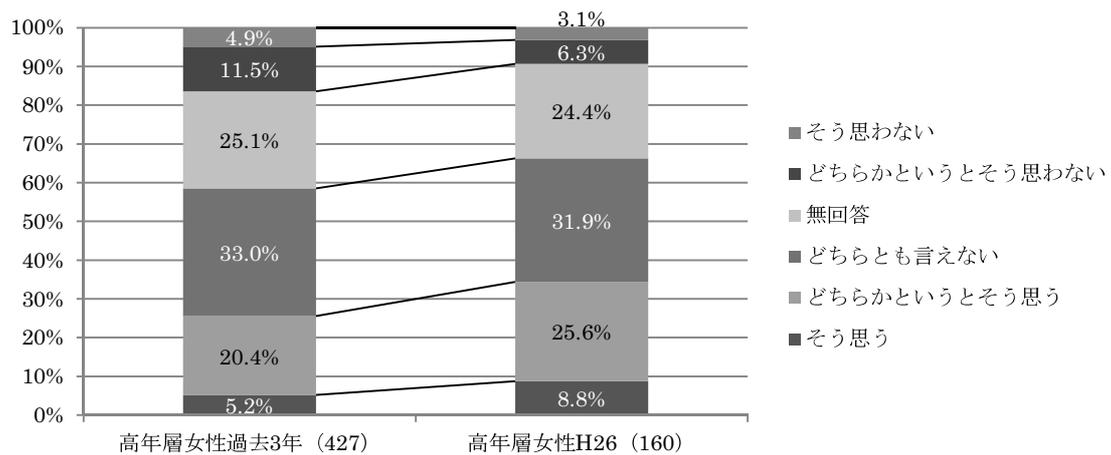
子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。

（中年層男性） **下降**



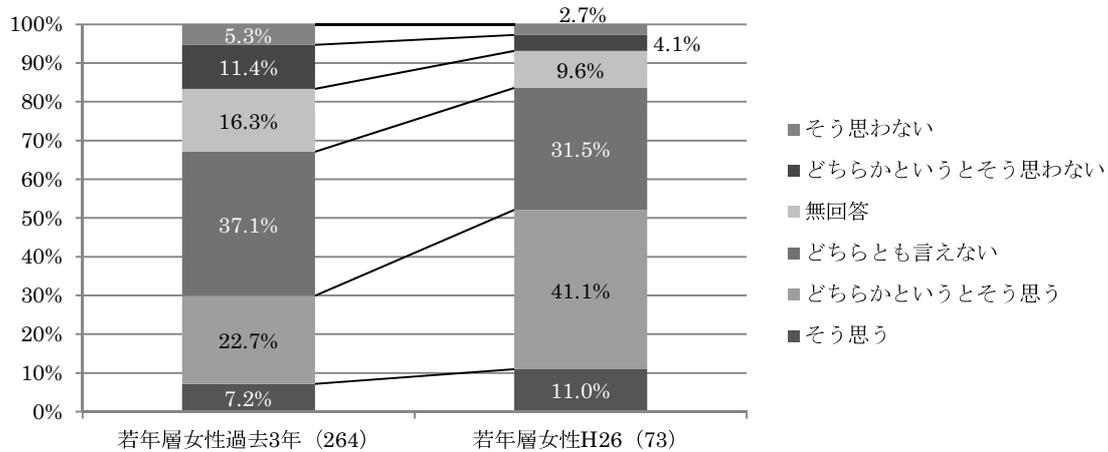
19 生涯学習（1問該当）

生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。（高年層女性） **上昇**



2.4 住宅（1問該当）

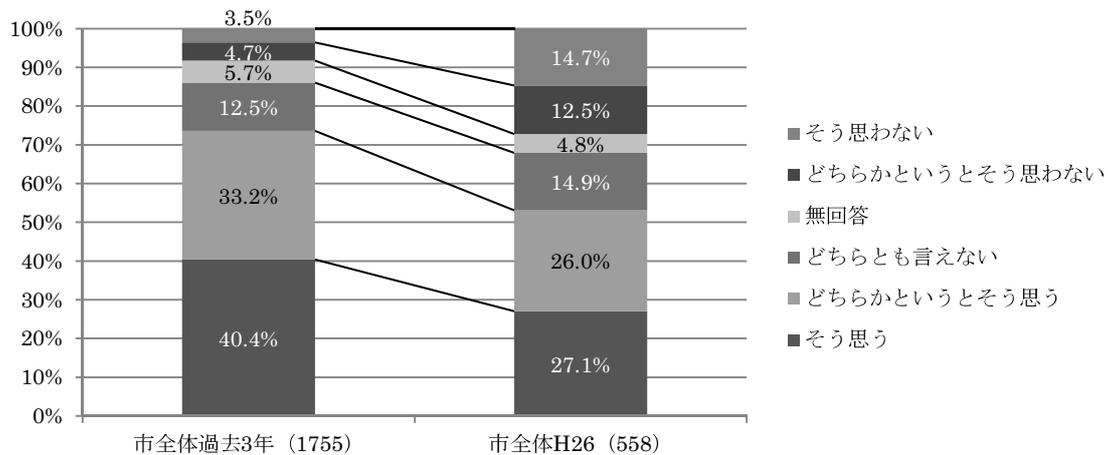
長く大切に使える住宅が増えている。（若年層女性） **上昇**



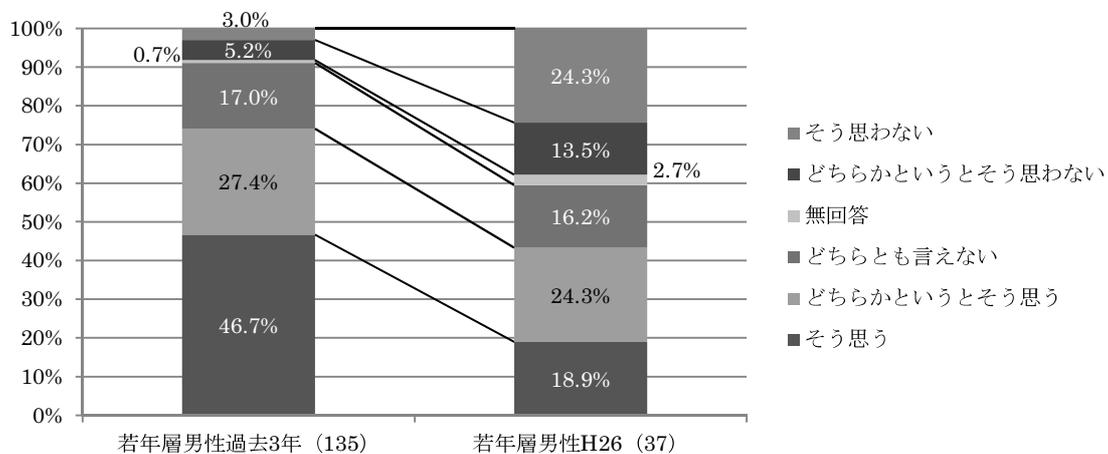
2.7 暮らしの水（2問該当）

(1) 大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。（市全体・若年層男性・若年層女性・中年層男性・中年層女性・高年層男性・高年層女性） **下降**

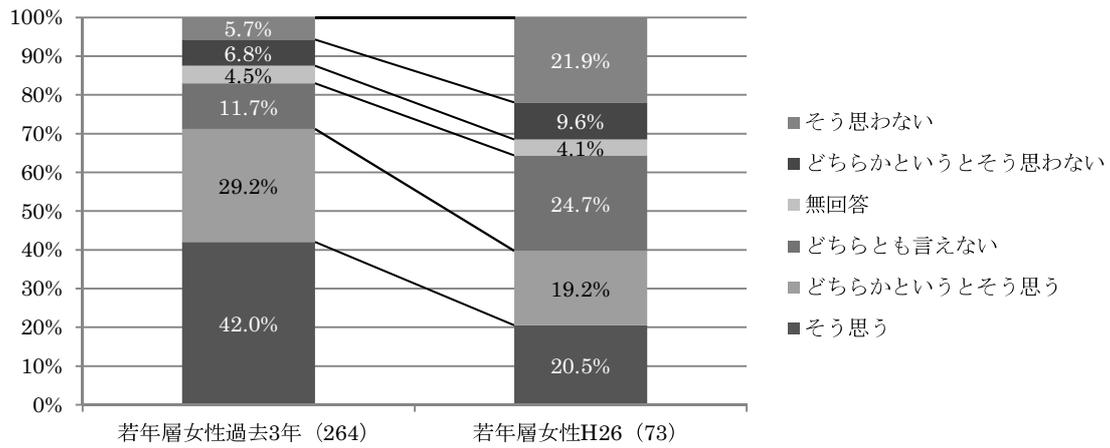
・市全体



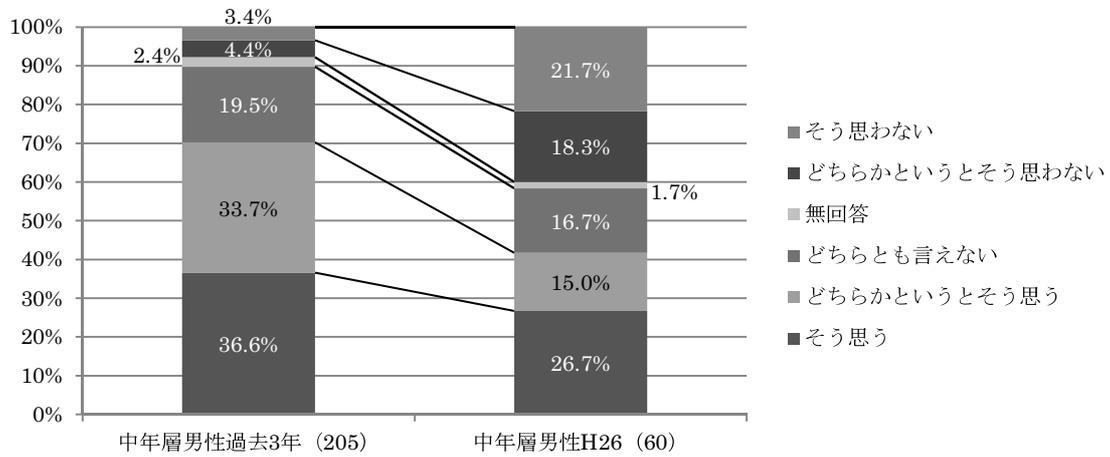
・若年層男性



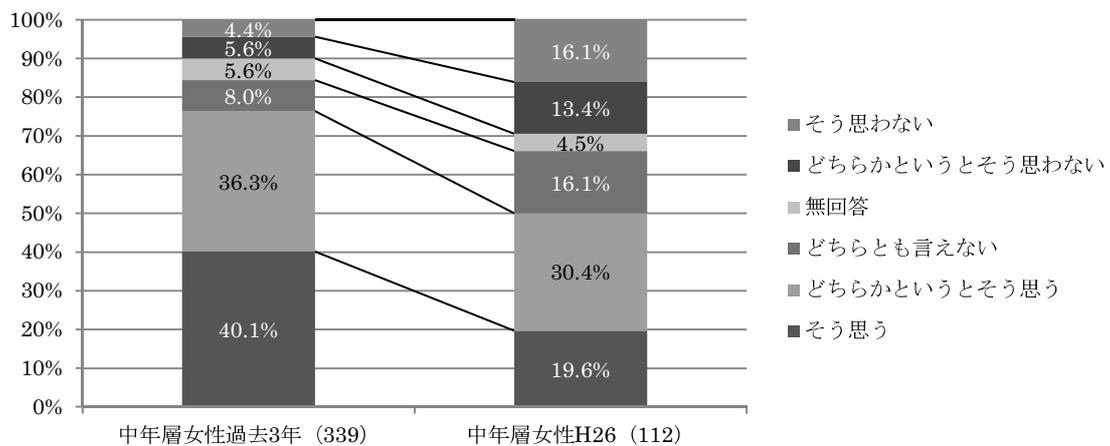
・若年層女性



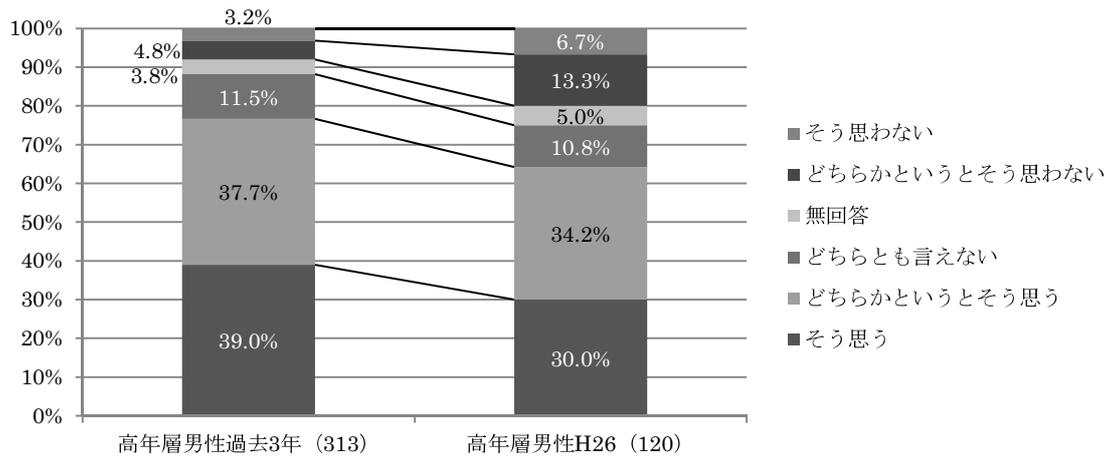
・中年層男性



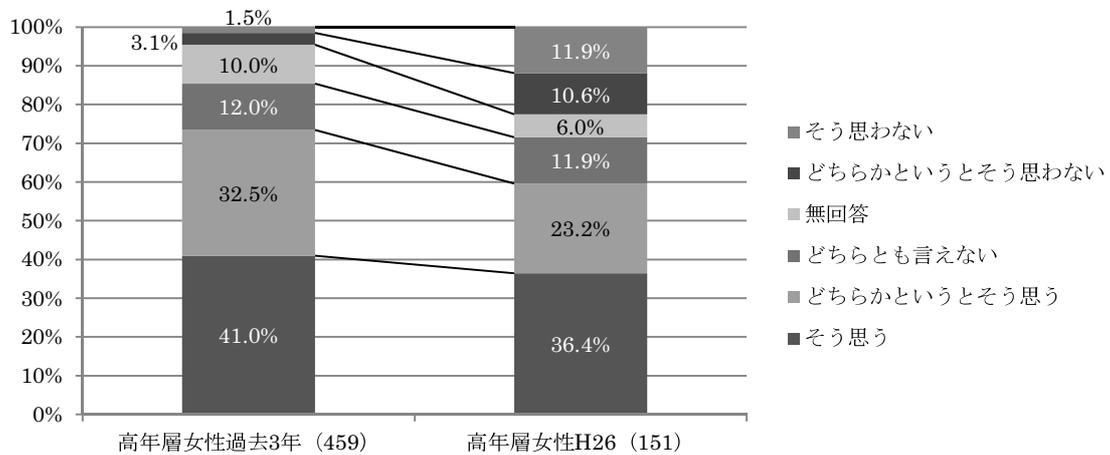
・中年層女性



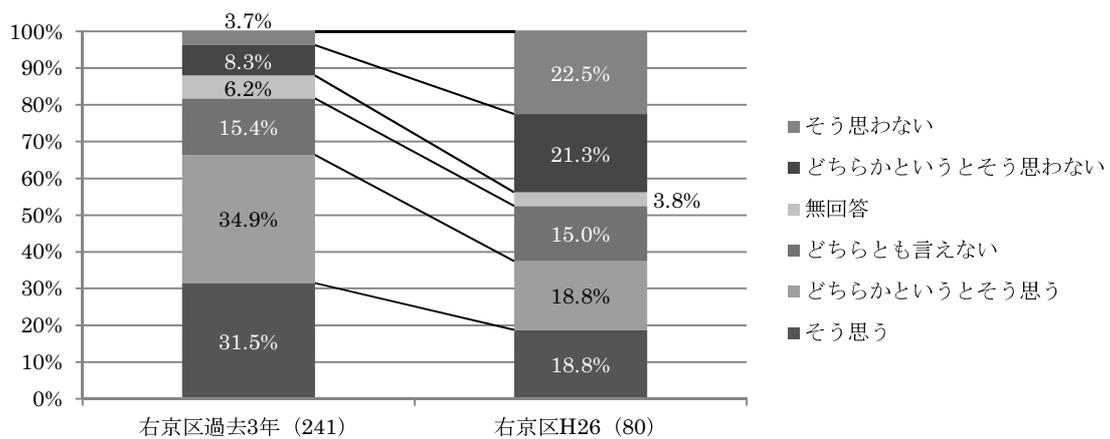
・高年層男性



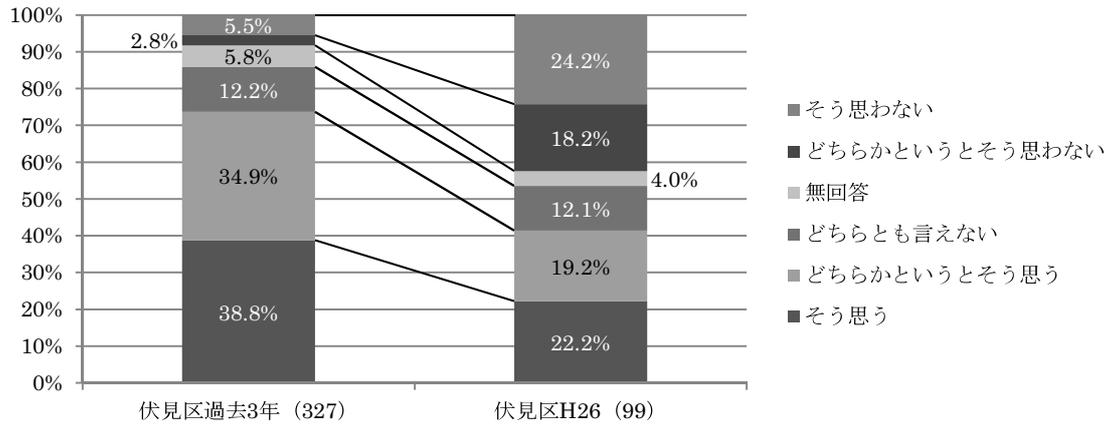
・高年層女性



・(参考) 右京区

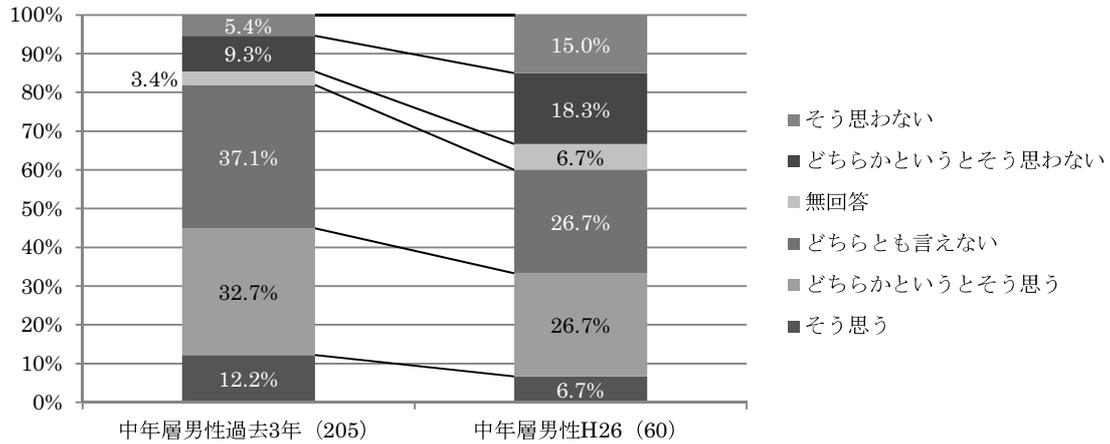


・(参考) 伏見区



(2) 水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。

(中年層男性) 下降



2 政策重要度と生活実感における相関について

27の政策分野における世代別・性別の政策重要度と生活実感との相関関係から、現在の政策及びその効果に対して市民がどのように感じているかを推測することができる。政策重要度と生活実感の分析結果は今後の政策の進め方を検討する参考となる。

政策重要度と生活実感における相関を分かりやすく表示するため、横軸に政策重要度、縦軸に生活実感を設定し、「重要である」と「そう思う」をプラス2点、「どちらかというとき重要である」と「どちらかというときそう思う」をプラス1点、「どちらとも言えない」を0点、「どちらかというとき重要ではない」と「どちらかというときそう思わない」をマイナス1点、「重要ではない」と「そう思わない」をマイナス2点と換算し、各回答数を掛け合わせたものを総回答数で割ることによって平均値を得た。その値を図にあてはめ、政策重要度と生活実感の相関を示した。

それぞれの相関の見方については、概ね以下のように考えられる。

●政策重要度も生活実感も高い

当該分野における政策を市民が重要と認識している。生活実感の高さについては、

- ・ 当該分野における政策の効果が高いと市民が認識している。
- ・ 政策の効果にかかわらず市民の生活場面（その時期に社会で起こった出来事など）における実感が高い。

等が原因と考えられる。

●政策重要度は低いが生実感が高い

政策重要度の低さは、

- ・ 政策の効果が市民生活に浸透していることにより当該分野における政策の重要性を市民がことさらに認識する必要がない。
- ・ 現在実行されている政策のPR不足等の理由によりそもそも市民が知らない。
- ・ 市民が当該分野の政策の優先順位が低いものと受け止めている。

等の理由により、市民が重要であると認識していないということが原因と考えられる。

一方、生活実感の高さは、

- ・ 当該分野における政策の効果が高いと市民が認識している。
- ・ 政策の効果にかかわらず生活場面における実感が高い。

等が原因と考えられる。

●政策重要度は高いが生実感は低い

当該分野における政策を市民が重要と認識している。生活実感の低さについては、

- ・ 当該分野における政策の効果が低いと市民が認識している。
- ・ 政策の効果にかかわらず生活場面における実感が低い。

等が原因と考えられる。

●政策重要度も生活実感も低い

政策重要度の低さは、

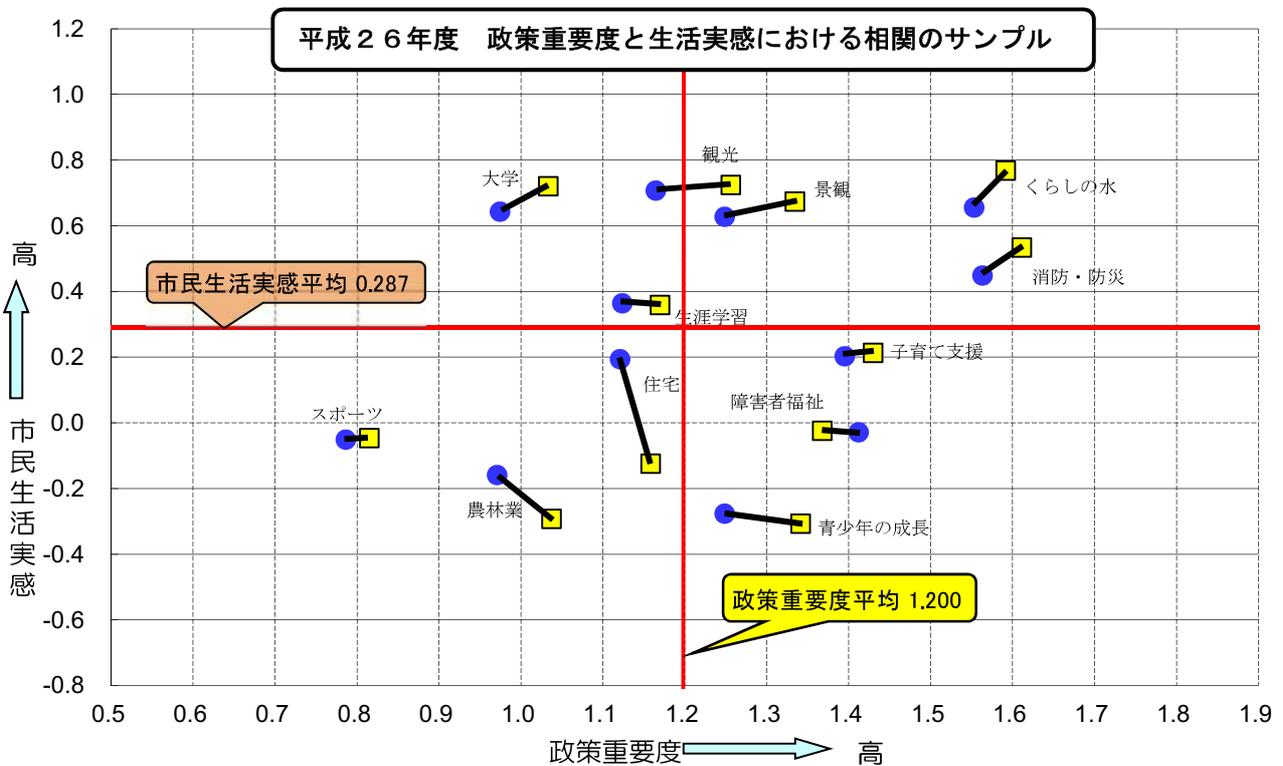
- ・ 政策の効果が市民生活に浸透していることにより当該分野における政策の重要性を市民がことさらに認識する必要がない。
- ・ 現在実行されている政策のPR不足等の理由によりそもそも市民が知らない。
- ・ 市民が当該分野の政策の優先順位が低いものと受け止めている。

等の理由により、市民が重要であると認識していないということが原因と考えられる。

生活実感の低さは、

- ・ 当該分野における政策の効果が低いと市民が認識している。
- ・ 政策の効果にかかわらず生活場面における実感が低い。

等が原因と考えられる。



※ 上図は市全体における相関の昨年度からの推移を示したサンプルである。推移を追うため、□を昨年度の値、●を今年度の値とし、同一の政策分野の動きを線でつないで表示している。次ページ以降、市全体及び世代別・性別の相関図を掲載する。

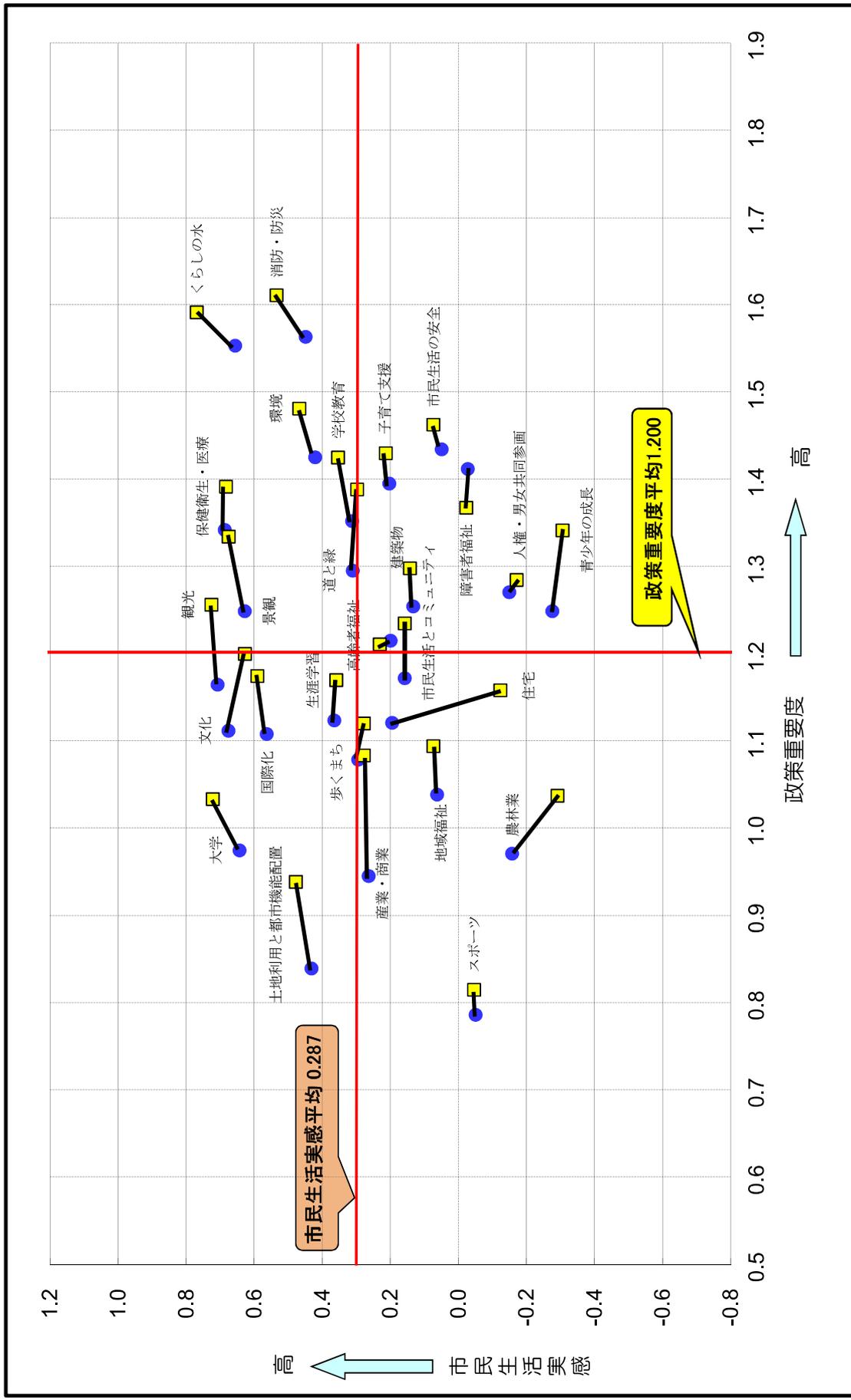
政策重要度と生活実感の関係 市全体のH25→H26変化

<資料8-1>

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

□は25年度の位置を、●は26年度の位置を、直線でつなげた。



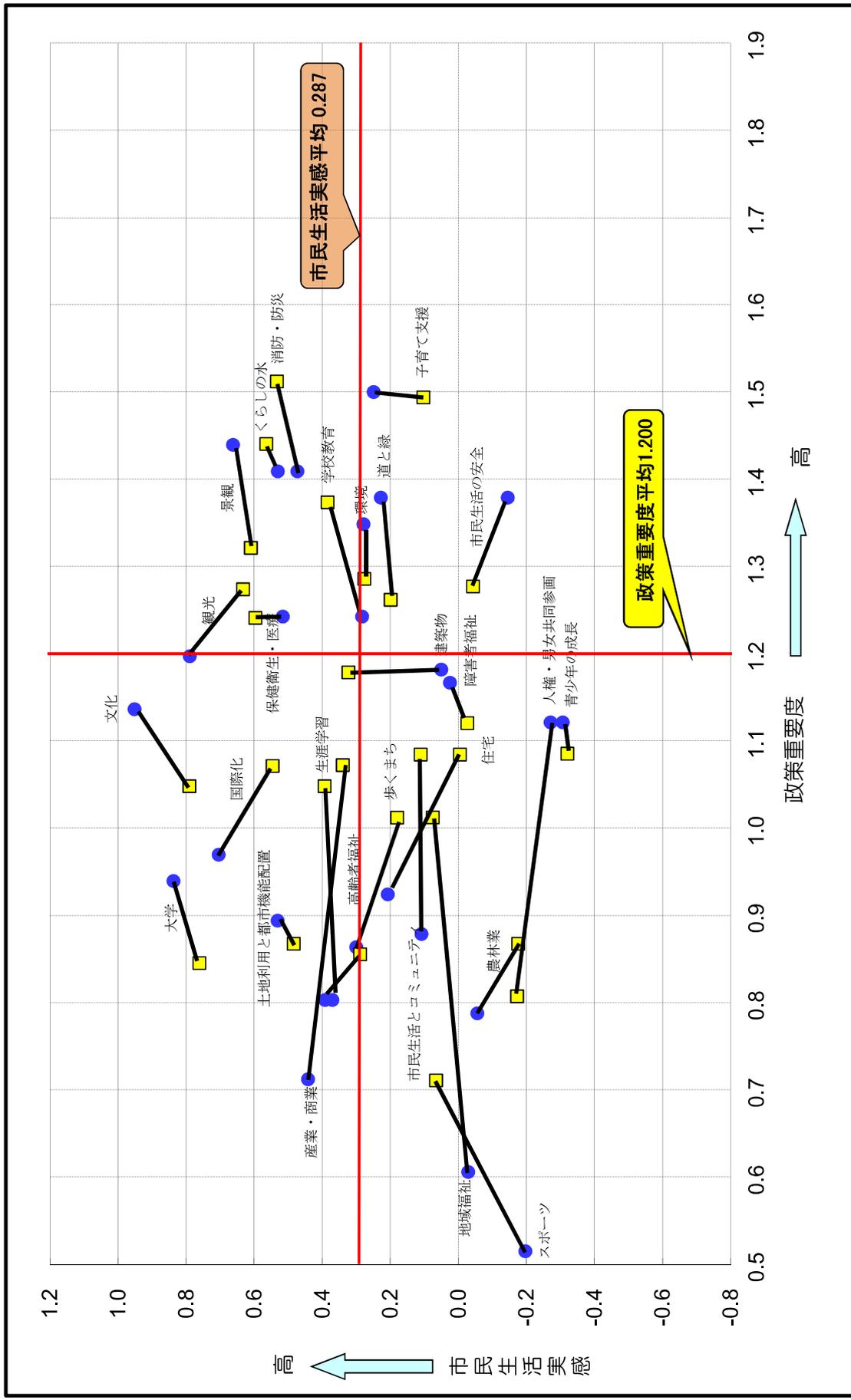
政策重要度と生活実感の関係 若年層男性のH25→H26変化

<資料8-2>

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

□は25年度の位置を、●は26年度の位置を、直線でつなげた。



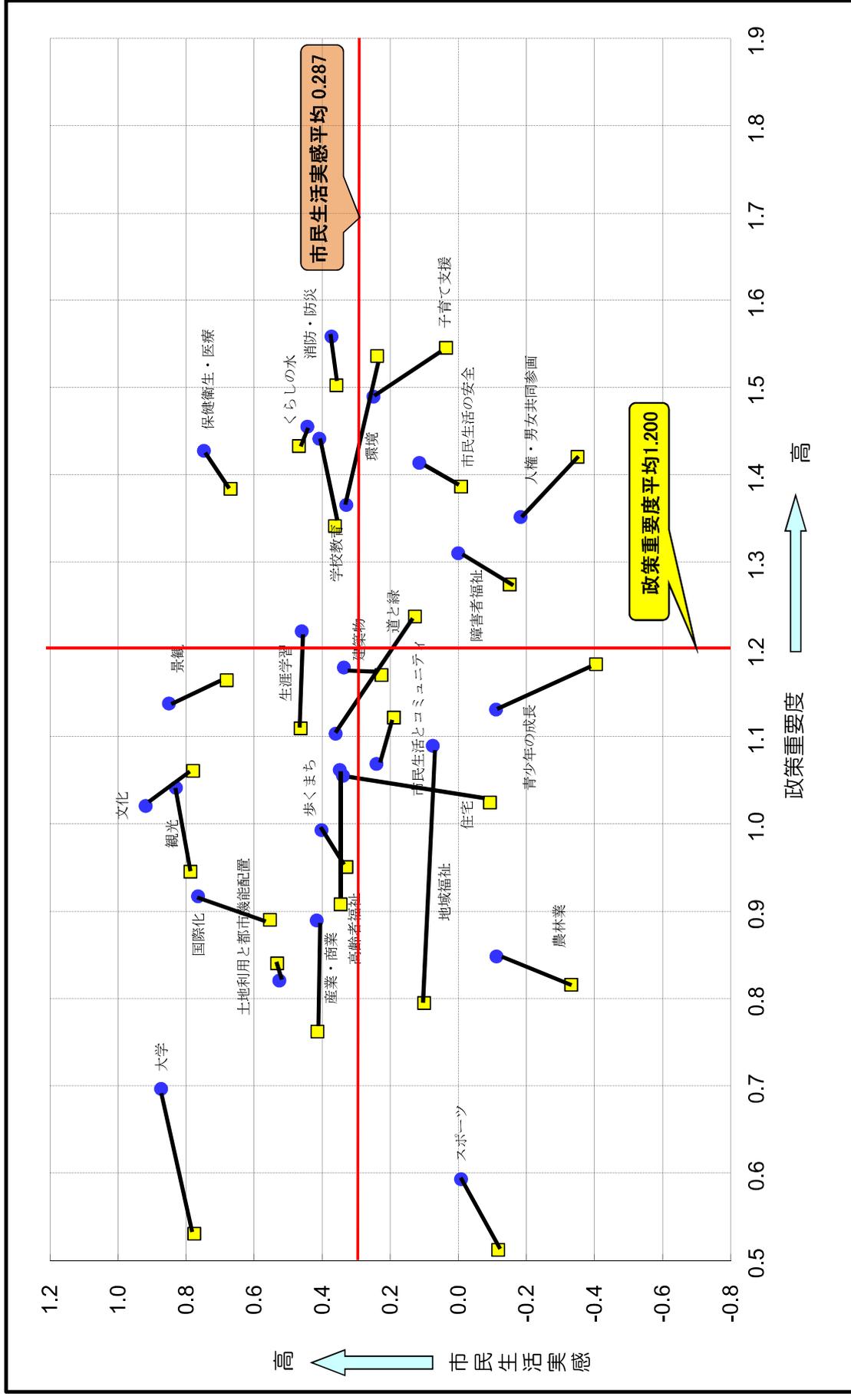
研究成果 政策重要度と生活実感の関係 若年層女性のH25→H26変化

<資料8-3>

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

□は25年度の位置を、●は26年度の位置を、直線でつなげた。



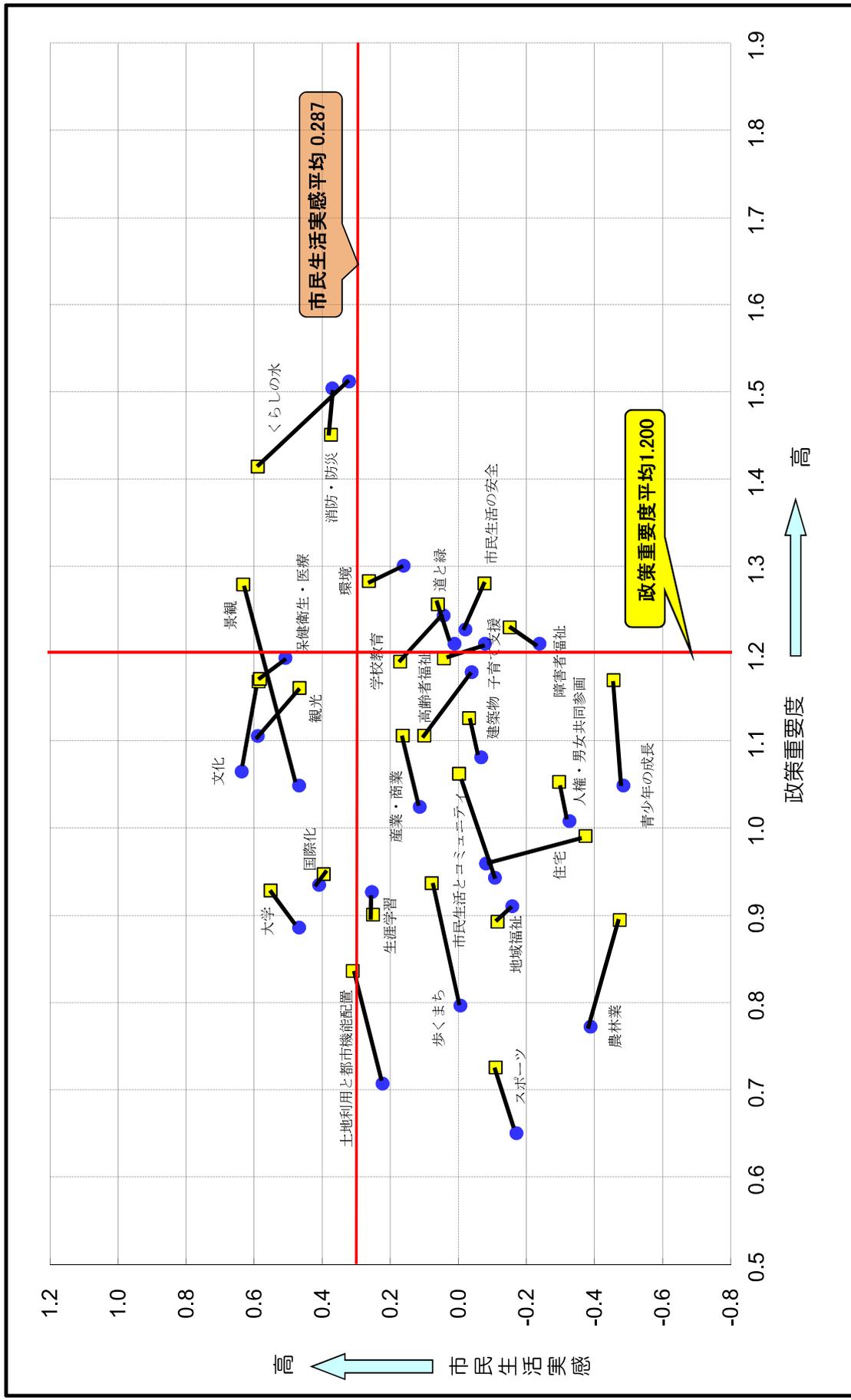
政策重要度と生活実感の関係 中年層男性のH25→H26変化

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

<資料8-4>

□は25年度の位置を、●は26年度の位置を、●は26年度の位置をそれぞれ示し、直線でつなげた。



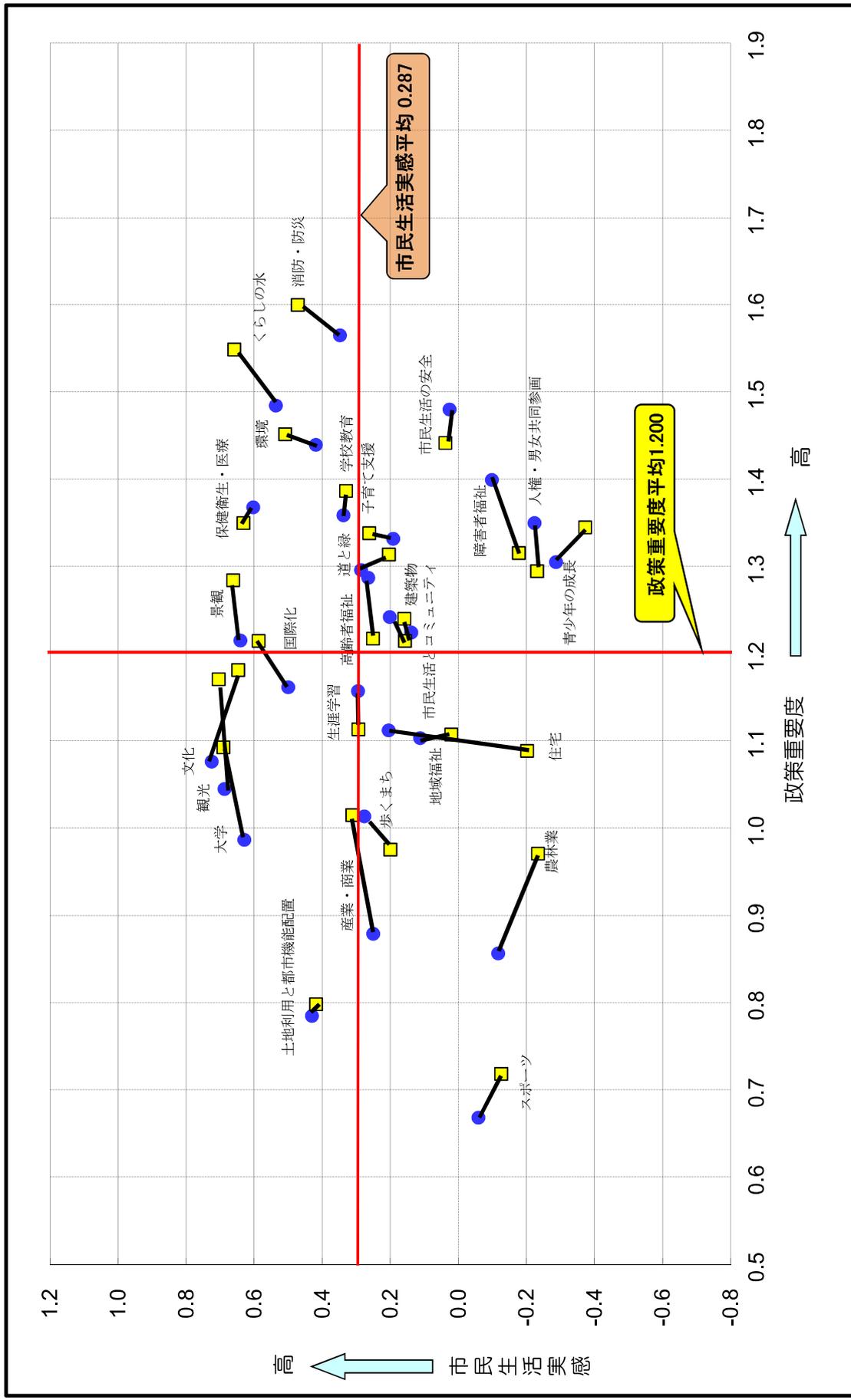
政策重要度と生活実感の関係 中年層女性のH25→H26変化

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

<資料8-5>

□は25年度の位置を、●は26年度の位置を、●は26年度の位置をそれぞれ示し、直線でつなげた。



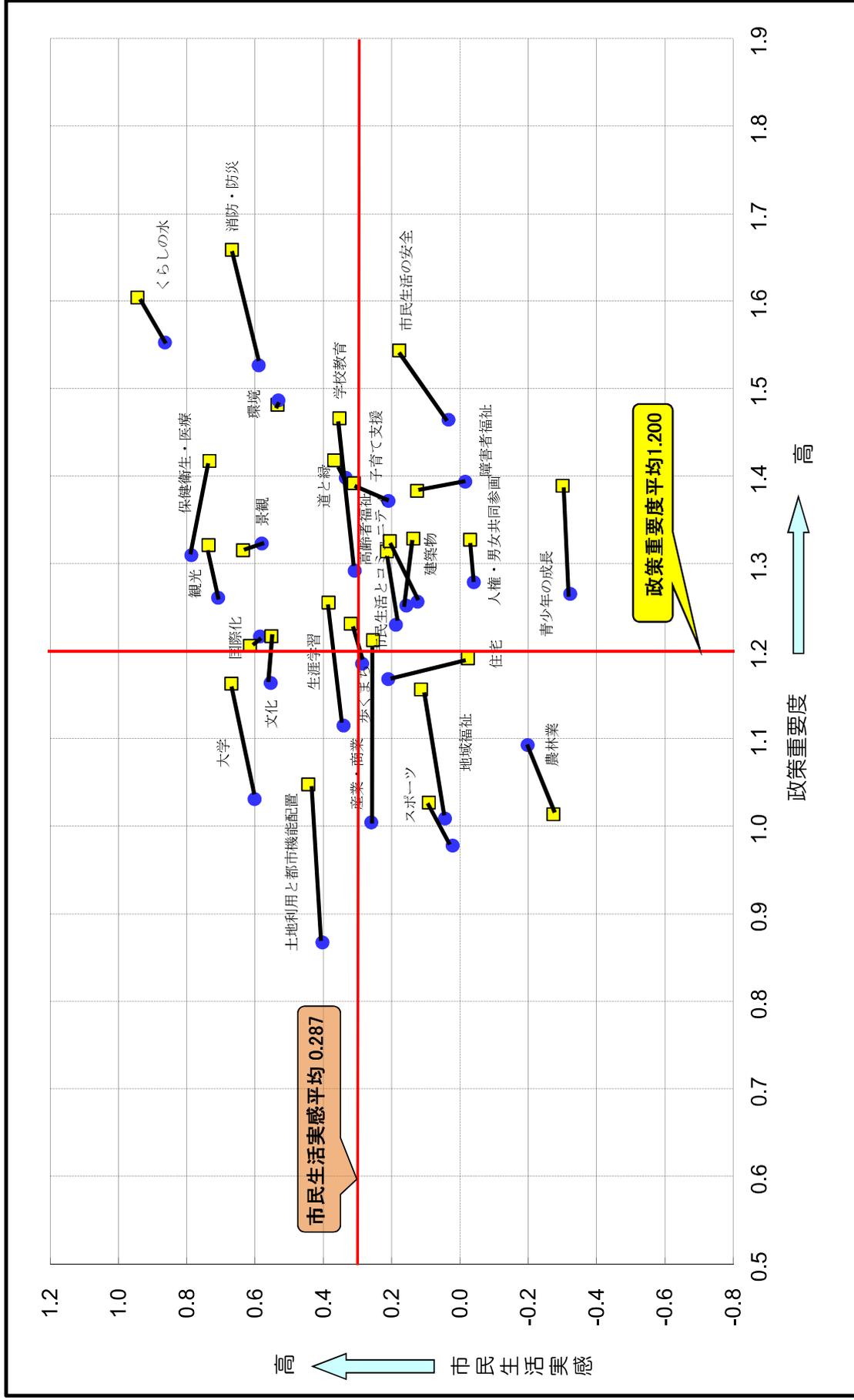
政策重要度と生活実感の関係 高年層男性のH25→H26変化

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

<資料8-6>

□は25年度の位置を、●は26年度の位置をそれぞれ示し、直線でつなげた。



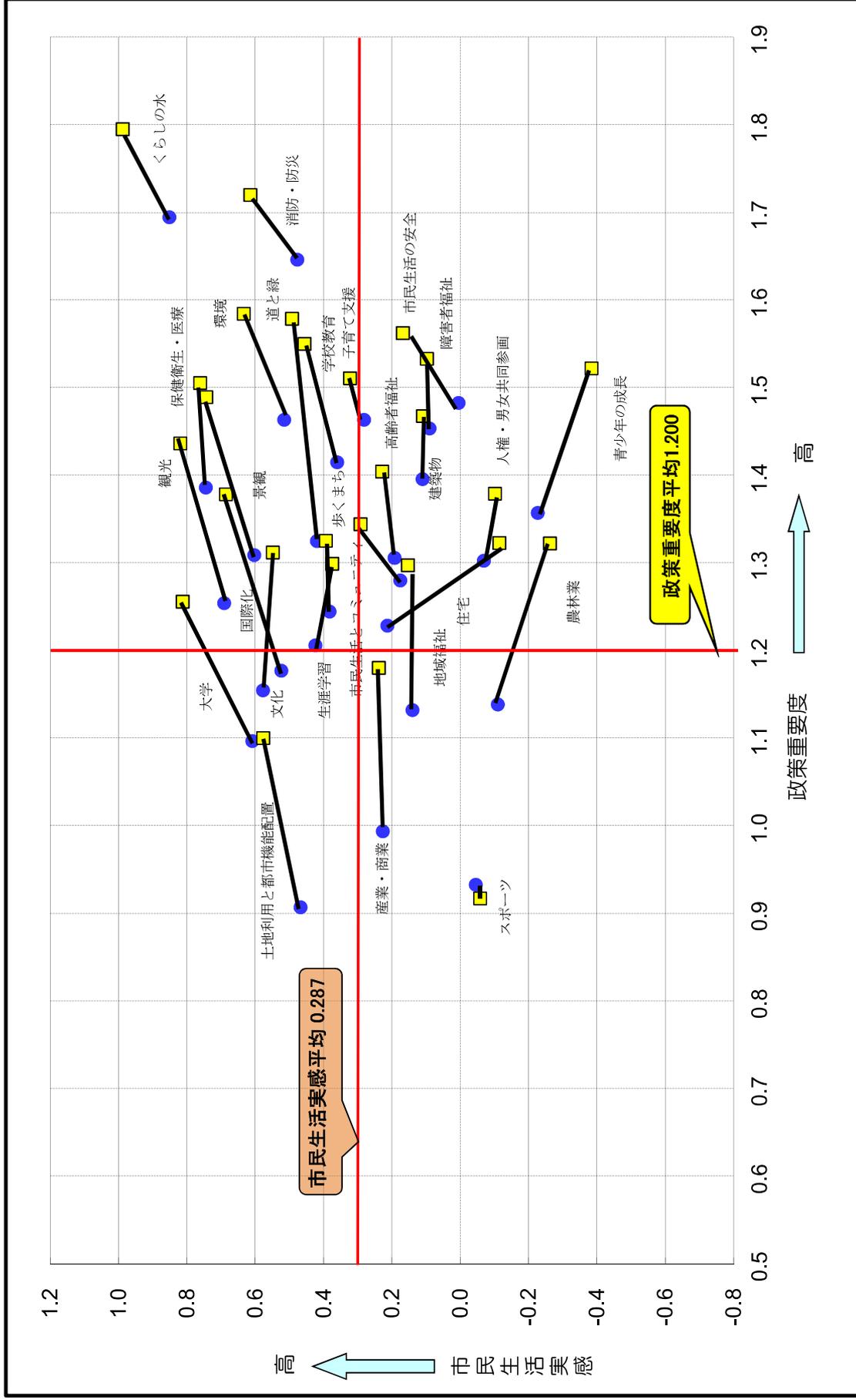
政策重要度と生活実感の関係 高年層女性のH25→H26変化

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

<資料8-7>

□は25年度の位置を、●は26年度の位置を、直線でつなげた。



3 生活実感と幸福実感における相関について

生活実感に関する130の設問と幸福実感の相関関係との分析を行い、世代別・性別ごとの相関係数（スピアマンの順位相関係数※）の上位5位まで取り上げた。また、昨年度と同じく「t検定」※を行い、有意水準1%に該当するもの（変化の幅が誤差の範囲を超えて顕著な変化を示しているもの）でもあるかどうかを検討した結果、すべて有意水準1%に該当することを確認した。

※スピアマンの順位相関係数とt検定

スピアマンの順位相関係数とは二つの変数間の相関を調べる手法であり、順序尺度に用いられる。正の相関係数が大きい場合、生活実感と幸福実感の相関が強く、生活実感が高いほど幸福実感も高いか、逆に生活実感が低いほど幸福実感も低いことが多いといえ、今後、生活実感を高めるような取組を推進することで幸福実感も上昇する可能性がある。

t検定とは2組のサンプルの平均値に差があるかどうかを調べる手法であり、本分析においては有意水準1%に該当したものを「変化の幅が誤差の範囲を超えて著しく変化したもの」として取り上げている。

なお、相関係数は-1～+1の値を取り、+1に近いほど正の相関が強く、-1に近いほど負の相関が強いことを意味する。相関係数が+1の場合は正の完全相関、-1の場合は負の完全相関、0の場合は無相関となる。相関関係の目安としては以下のように示されることが多い。

項目	値
強い正の相関がある	+0.7～+1.0
中程度の正の相関がある	+0.4～+0.7
弱い正の相関がある	+0.2～+0.4
ほとんど相関がない	-0.2～+0.2
弱い負の相関がある	-0.2～-0.4
中程度の負の相関がある	-0.4～-0.7
強い負の相関がある	-0.7～-1.0

分析結果からは、市全体では相関係数が最も大きい設問でも0.3であり、生活実感と幸福実感の相関の程度は弱いものが多かった。世代別・性別に見ると、若年層男性で相関の程度が最も強い設問が見られ、また政策分野「景観」「歩くまち」における相関は他の世代別・性別の区分では見られないものであった。中年層は男女とも相関係数が比較的小さかったことと、政策分野「産業・商業」において2設問ずつ相関が見られたことが特徴的であった。高年層は男女とも政策分野「くらしの水」で、中程度の相関がある設問が見られた。

次ページ以降には市全体と各世代別・性別の、いずれも相関係数が大きいものから上位五つの設問を抜き出し、生活実感の肯定的割合と合わせて一覧を示す。

生活実感と幸福実感において相関を示した設問 一覧表

【市全体】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
市民生活とコミュニティ	地域の一員として安心して暮らせるまちになっている。	55.0%	0.336
道と緑	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。	46.1%	0.332
文化	文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。	52.3%	0.312
観光	京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。	58.0%	0.293
消防・防災	京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。	66.2%	0.292

【若年層男性】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
景観	京都の暮らしや文化を伝えている京町家が継承されている。	69.0%	0.681
歩くまち	地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。	79.3%	0.654
歩くまち	駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。	34.5%	0.619
国際化	京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。	58.6%	0.588
観光	京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都観光の振興に協力的である。	72.4%	0.562

【若年層女性】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
市民生活の安全	事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にさせるまちになっている。	46.6%	0.414
道と緑	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。	48.6%	0.405
子育て支援	必要ときに健康相談を受けたり、病院に行けたり、安心して子どもを生み育てることができる。	46.6%	0.404
文化	文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。	73.6%	0.381
観光	子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。	58.9%	0.378

【中年層男性】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
文化	京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。	77.8%	0.387
産業・商業	働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。	9.5%	0.386
道と緑	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。	39.7%	0.386
市民生活とコミュニティ	地域の一員として安心してさせるまちになっている。	52.4%	0.371
産業・商業	京都では、価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。	52.4%	0.362

【中年層女性】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
市民生活とコミュニティ	地域の一員として安心してさせるまちになっている。	60.4%	0.382
産業・商業	ソーシャルビジネス（社会的企業）が育ってきている。	13.5%	0.341
道と緑	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。	47.7%	0.327

消防・防災	京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。	57.7%	0.306
産業・商業	京都では、さまざまな企業や産業の活動が互いに刺激し合って発展している。	38.4%	0.302

【高年層男性】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
土地利用と都市機能配置	身近な地域が魅力的になっている。	35.0%	0.496
くらしの水	京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。	70.8%	0.472
消防・防災	身近なところで防火意識が高まり、出火防止の取組が進んでいる。	44.2%	0.421
道と緑	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。	44.3%	0.407
市民生活とコミュニティ	町内会、自治会など地域の組織の活動が盛んである。	41.7%	0.376

【高年層女性】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
くらしの水	京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。	83.8%	0.401
くらしの水	京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。	70.6%	0.398
保健衛生・医療	安心して食べられる食品が手に入るなど、衛生的な生活環境が整っている。	59.6%	0.382
市民生活の安全	事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にくらせるまちになっている。	41.7%	0.380
くらしの水	京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。	71.9%	0.376

4 自由記述の分析について

自由記述の回答に対し、頻出する単語とそれに関連する単語をまとめた。自由記述は与えられた設問ではないため、回答者の潜在的なニーズを抽出することができ、今後実施する政策や事業等を検討するうえで参考となりうる。

自由回答など定性的なものを解析するためには定量的なデータに変換することが効果的であり、今年度も統計的分析手法の一つであるテキストマイニング法※を用いて、市全体と世代別・性別に分けて分析を行った。世代別・性別の区分ごとの自由記述の回答の中から頻出する単語を上位五つ抽出し、それぞれの単語の関連語を上位五つ抽出した。なお、関連語とは「名詞」「サ変名詞」に該当するものとした。

※ テキストマイニング

一般にアンケートの自由回答は回答者が主観的（定性的）に書かれる。多くの文章の中から何かを読み取るためには客観的（定量的）に把握する必要があり、そのための手法としてアナログな文字情報をデータ化することで分析処理が可能となる。この作業をテキストマイニングという。

分析結果から、市全体においては「生活」が最も多く、子供や自身が住む地域に関することなど身近な問題に関する意見が多いことがわかった。世代別・性別では若年層・中年層の男女とも「子供」「子ども」についての意見が全体的に多く、高年層では男女とも「生活」が最も多く見られた。

<市全体> 回答数 489

「生活」が最も多く、子供や地域に関することなどへの意見も多く見られた。

	頻出語1位 生活	頻出語2位 子供	頻出語3位 観光	頻出語4位 市民	頻出語5位 地域
関連語1位	保護	教育	都市	行政	活動
関連語2位	年金	学校	道路	アンケート	町内
関連語3位	市民	公園	交通	新聞	道路
関連語4位	仕事	環境	シーズン	生活	自治
関連語5位	税金	社会	整備	情報	住宅

<若年層男性> 回答数 31

「自転車」に対する意見が最も多く見られた。「お願い」も頻出語だったが、行政に対する事項を述べているものが多かった。

	頻出語 1 位 自転車	頻出語 2 位 観光	頻出語 2 位 お願い	頻出語 4 位 行政	頻出語 4 位 高齢
関連語 1 位	歩行	生活	機能	自治	バリアフリー
関連語 2 位	スピード	市民	安心	地中	子供
関連語 3 位	友人	偏見	都市	機能	出産
関連語 4 位	衝撃	障害	行政	景観	安心
関連語 5 位	歩き	市営	高齢	高齢	社会

<若年層女性> 回答数 73

「子供」「子ども」が最も多く見られたことが特徴的であった（扱いとしては別の単語として分析）。

	頻出語 1 位 子供	頻出語 2 位 子ども	頻出語 3 位 地域	頻出語 4 位 市民	頻出語 5 位 生活
関連語 1 位	公園	状況	参加	新聞	保護
関連語 2 位	医療	機会	活動	生活	地元
関連語 3 位	子育て	支援	機会	保護	市民
関連語 4 位	環境	状態	実感	年齢	男性
関連語 5 位	市民	安心	イベント	対応	道路

<中年層男性> 回答数 52

他の世代別・性別では見られない「企業」が頻出語であることが特徴的であった。

	頻出語 1 位 子供	頻出語 2 位 企業	頻出語 3 位 観光	頻出語 3 位 施策	頻出語 5 位 景観
関連語 1 位	勉強	学生	道路	先人	条例
関連語 2 位	スポーツ	年金	都市	協調	住宅
関連語 3 位	利用	社会	仕事	道筋	市内
関連語 4 位	社会	収入	通勤	全般	建築
関連語 5 位	教育	負担	ガタガタ	古都	マンション

<中年層女性> 回答数 108

「観光」についての意見が最も多く見られたことが特徴的であった。

	頻出語1位 観光	頻出語2位 自転車	頻出語3位 生活	頻出語4位 子供	頻出語5位 道路
関連語1位	整備	歩行	保護	公園	整備
関連語2位	交通	道路	市民	教育	地域
関連語3位	バス	通行	税金	学校	観光
関連語4位	都市	携帯	教育	観光	公園
関連語5位	市バス	ポイ捨て	安心	地域	自転車

<高年層男性> 回答数 102

「生活」が最も多かったこと以外では「市民」や「地域」に関する意見も多いことが特徴的であった。

	頻出語1位 生活	頻出語2位 市民	頻出語3位 地域	頻出語4位 観光	頻出語5位 行政
関連語1位	年金	職員	自治	外国	市民
関連語2位	行政	行政	活動	都市	お世話
関連語3位	歴史	仕事	学校	市長	期待
関連語4位	保護	努力	住民	文化	自治
関連語5位	商業	情報	町内	条件	努力

<高年層女性> 回答数 123

「生活」と「高齢」という単語が多いことが特徴的であった。

	頻出語1位 生活	頻出語2位 高齢	頻出語3位 市民	頻出語4位 観光	頻出語5位 子供
関連語1位	年金	障害	市政	都市	学校
関連語2位	保護	福祉	自分	道路	テレビ
関連語3位	福祉	住宅	音楽	バス	教育
関連語4位	相談	安心	期待	ゴミ	人達
関連語5位	安心	交通	情報	交通	交通